

20. 技術と社会部門：部門長 星 朗，他 44 名，運営委員会開催 2 回，総務委員会開催 4 回

- 1) 総務委員会の下に設置された 3 委員会および機械遺産委員会，研究会，技術ロードマップ委員会委員，各担当委員で部門運営にあたった。
- 2) No. 12-1 2012 年度年次大会（9 月 9－12 日，金沢大学角間キャンパス）において，OS 3 件（部門単独），WS 2 件（部門単独）を企画・開催した。OS の内訳は，G200 一般講演 2 件，S201 技術と社会 4 件，S202 技術教育・工学教育 24 件，S203 機械技術史・工学史 7 件である。また，各実行組織の報告事項として後述するが，部門内に設置された「機械遺産委員会」によるパネル展示を含め，3 件の市民対象行事（部門単独 2 件，他部門との共催 1 件）を企画・開催した。9 月 10 日に部門同好会を金沢大学生協食堂で開催し，29 名が参加した。
- 3) 2012 年度年次大会（金沢大学 角間キャンパス）において，大会初日の 9 月 9 日（日）に市民対象行事として「レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿から復元した機構模型の展示」を実施した。展示は JR 金沢駅地下のもてなしドーム地下イベント広場で行われた。2013 年 1 月発行のニュースレターにて報告がなされた。
- 4) No. 12-69 部門講演会「技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる」（2012 年 11 月 24 日，秋田工業高等専門学校）を日本設計工学会との共催，および秋田工業高等専門学校地域共同テクノセンターの後援により開催した。技術教育・工学教育，機械技術史・工学史，設計教育・CAD 教育，エネルギー教育・環境教育，北東北の産業技術と技術史の 5 つの OS を設け，36 件の講演が行われ，52 名が参加した。
- 5) No. 12-70 見学会「秋田の産油関連施設と尾去沢鉱山を訪ねて」（2012 年 11 月 25 日，秋田）を開催し，12 名が参加した。2013 年 1 月発行のニュースレターにて報告がなされた。
- 6) No. 12-204 第 6 回経営と技術移転に関する国際会議（The 6th International Conference on Business and Technology Transfer, ICBTT2012）（2012 年 12 月 6-8 日，英国ニューカッスル大学ビジネススクール）を開催した。ICBTT2012 には，経営・技術移転，人材育成，技術教育，工学教育，機械技術史，機械遺産などに係わる研究者，技術者，教育者ら 25 名が参加し，招待講演 2 件，一般講演 13 件の口頭発表があり，有益な国際交流および情報交換が行われた。
- 7) 会誌 2013 年 8 月号「機械工学年鑑 第 22 章」について，部門長の申請により 1 頁の追加配分を受け，3 頁分の執筆分担を，1. 概観（星朗部門長），2. 技術・工学教育（門田和雄委員），3. 技術史・工学史と機械遺産認定（池森寛機械遺産委員長），4. 技術者倫理（高田一委員），5. イブニングセミナー（奥村喜勝委員）とした。
- 8) 当部門から本会イノベーションセンターの技術ロードマップ委員会に吉田敬介委員を委員として派遣し，本会の運営活動に協力した。
- 9) 総務委員会は，日本産業技術教育学会主催の「第 15 回エネルギー利用技術作品コンテスト」の第 2 次審査委員会（2012 年 10 月 27 日，信州大学教育学部）に審査員を 1 名派遣した。
- 10) 広報委員会は，2012 年 7 月 31 日付けで部門ニュースレター（NL）No. 27 を，さらに 2013 年 1 月 31 日付けで部門ニュースレター（NL）No. 28 を部門ホームページ上に発行した。
- 11) 広報委員会は，部門総務委員会内に本年度から設置したホームページワーキンググループと協働で年間を通してホームページ管理を行い，最新情報の更新に努めた。主な更新内容は，イブニングセミナー「東京の城・石神井城から江戸城まで」（12/3），イブニングセミナー「魚と日本人の深い係わり」（11/29），第 5 回 新☆エネルギーコンテスト開催報告（10/20），講演会「秋田の産油関連施設と尾去沢鉱山を訪ねて」（10/19），見学会「第 9 回技術者のため

- の技術者倫理セミナー「事故・不祥事の背景から学ぶリスクマネジメンター」(10/18), 特別講演会「ブルネルとシェイクスピアの「驚きの島々」--ロンドンオリンピックの開会式での演出を読み解く--」(9/22), イブニングセミナー「ナチスの収容所で子どもたちは 4000 枚の絵をのこした」(9/7), イブニングセミナー「日本の人造宝石技術, その一断面「宮沢賢治から青色 LED 用基板まで」(8/20), イブニングセミナー「世界と日本を結ぶ「海外インターンシップ運営を通じた学生の挑戦」(8/20), 特別講演会「日本固有の文化としての 1010 (銭湯)」(8/4), 講演会「第 2 回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会」(6/30), 講演会「技術と社会の関連を巡って: 過去から未来を訪ねる」(5/8) 等である。
- 12) 機械遺産委員会は, 2012 年度認定機械遺産候補選定のための会議を 2011 年に続いて 4 回 (第 3 回 2012 年 3 月 5 日, 第 4 回 6 月 9 日, 第 5 回 8 月 31 日) 開催した。さらに 2013 年度認定機械遺産候補の選定作業のため 3 回 (第 1 回 2012 年 10 月 29 日, 第 2 回 12 月 20 日, 第 3 回 2013 年 2 月 27 日) の会議を開催した。第 1 回会議において機械遺産委員長として新たに大久保英敏委員を選出し (他の委員・アドバイザーは留任), 運営委員会に上申・承認された。
- 13) 機械遺産委員会は, 機械遺産監修委員会 (2012 年 4 月 13 日) において, 2012 年認定機械遺産候補 7 件の答申を行い, その諮問を受け 6 件が了承された。その後, 先方の事情により辞退の申し出が 1 件あり, その対応を理事会からの依頼により行った。この結果, 2012 年認定機械遺産は 5 件となった。
- 14) 機械遺産委員会は, 2012 年「機械の日」実行委員会に 2 回 (第 1 回 1 月 13 日, 第 2 回 3 月 21 日), さらに 2013 年「機械の日」実行委員会の第 1 回目 (1 月 16 日) に出席し, 機械遺産候補選定進行状況の概要と記念行事における機械遺産に関連するものについての意見を述べた。
- 15) 機械遺産委員会は, 2012 年度機械の日における機械遺産認定式典 (8 月 7 日, 東京・日本学士院講堂) に出席し, 池森寛委員長が認定機械遺産 5 件を解説・報告し, 開催に協力した。
- 16) 機械遺産委員会は, 2012 年度年次大会 (金沢大学) において, 市民対象行事として 9 月 9 日金沢駅地下イベント広場にて認定機械遺産 55 件のパネル展示を実施した。さらに翌日から 12 日まで大会会場の金沢大学角間キャンパスにて同パネルの展示を行った。なお, 今回からパネルをスクリーン印刷製とし展示方法の改善を行った。
- 17) 機械遺産委員会は, 2012 年度年次大会 (金沢大学角間キャンパス) において, ワークショップ WS 20100 「戦後の技術開発史を語る」と WS 20200 「産業考古学シリーズ」の 2 件を企画・開催した。また技術史・工学史関連の講演が 7 件なされた。
- 18) 機械遺産委員会は, 電気学会から 2012 年電気学会全国大会 (広島工業大学) での顕彰活動に関するシンポジウムへの講師派遣の依頼を受け, 2012 年 3 月 22 日小野寺英輝副委員長 (岩手大学) が出席し, 機械遺産についての講演を行った。
- 19) 表彰委員会は, 英国ニューキャッスル大学で開催された, 本部門が共催する第 6 回 ICBTT 2012 (経営と技術移転に関する国際会議) において, 2012 年 12 月 7 日, John F. Wilson 氏 (同大学ビジネススクール) および, 堤一郎氏 ((財) 交通協力会) の 2 名に 2011 年度部門賞の功績賞を贈賞した。
- 20) 表彰委員会は, 2012 年度年次大会 (金沢) の期間中, 9 月 10 日に開催した部門同好会において, 2011 年度部門一般表彰の優秀講演論文表彰を, 中島円・八木田寛之・佐々木正一 (慶應義塾大学大学院) の各氏と, 大久保英敏 (玉川大学) ・池森寛 (西日本工業大学) ・吉田敬介 (九州大学, 以下, 同) ・森英夫・河野正道・仮屋圭史の各氏ら, 2 グループに贈賞した。
- 21) 表彰委員会は, 運営委員会の審議結果に基づき, 村田良美氏 (明治大学) を 2012 年度組織推薦によるフェロー候補として応募した。

- 22) 表彰委員会は、2012年度部門賞（功績賞，業績賞）と部門一般表彰（優秀講演論文表彰）の候補について1月4日に応募受付締切り，審議中である。
- 23) イブニングセミナー実行委員会と旧技術と社会問題研究会が中心となり，3月28日（母子手帳：青年を感動させ，少子化日本を救う），4月25日（小さな親切？大きなお世話？－車いす研究者の福祉機器開発よもやま話－），5月30日（企業の中の学校と企業内教育－ある企業人の回想－から），6月27日（何故，技術者になれないのか－技術者でない技術者半生－），7月25日（何故間違いは拡散するのか？－科学書で見られる流体力学に関するご認識－），8月29日（国道57号線のリスクを負う－雲仙普賢岳の警戒区域解除までの5年間－），9月26日（ナチスの収容所で子供たちは4000枚の絵をのこした），10月31日（世界と日本を結ぶ－海外インターンシップ運営を通じた学生の挑戦－），11月28日（日本の人造宝石技術，その一断面－宮沢賢治から青色LED用基板まで－），12月19日（魚と日本人の深い関わり），2013年1月30日（東京の城－石神井城から江戸城まで－）の11回実施した。会場は昨年度に引き続き明治大学駿河台キャンパスにて開催している。
- 24) 旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は，5月21日と11月17日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」を日本技術士会東京にて企画・開催した。それぞれ11名と15名の参加者があった。
- 25) 旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は，セミナー企画のため，4回の打ち合わせを行った。
- 26) 旧知的財産権委員会関係者は，関東支部講演会（3月11日，日本大学）においてWS「進化し続ける知的財産権」を開催し，4名の話題提供を行った。
- 27) 人機能支援の工学研究会では，年次大会（9月12日，金沢大学）において，5部門の合同企画JS「ライフサポートとQOL」に協力した。
- 28) ブルネル・スピリット研究会は，ものづくりへの挑戦心と情熱を世間に広めるため，11月に「ロータリー・エンジン開発」，12月に「構造芸術の設計開発のスピリット」および「日本の機械遺産」について，都内で研究会を3回開催した。
- 29) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は，2012年度年次大会（金沢大学角間キャンパス）において，9月9日に市民対象行事として「スターリングエンジンの遊びと教育と実用」を実施した。エンジンシステム部門との共同企画であり，「スターリングサイクル機器を題材にした実践的技術者教育に関する研究会」の協力を得て5件の講演を行った。講演者等スタッフを除き17名の参加者があった。この講演会は，公開研究会としての位置付けである。2013年1月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 30) スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は，大分大学において，10月13日に第2回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した。エンジンシステム部門との共同企画である。参考出品を含む7組の競技参加があり，18人が出席した。本行事については2013年1月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 31) 当部門が日本大学工学部との共催により「第5回新☆エネルギーコンテスト」（2012年10月20日，日本大学工学部70号館）を開催し，これに併せて「新☆エネルギーコンテスト」ホームページ（部門ホームページからリンク）の立ち上げや，イベントへの協賛（賞品提供及び審査）企業確保に関する活動を行い，7社1団体の協賛を得た。参加作品は19作品で，当日の参加者は77人であった。次年も日本大学工学部（郡山）を会場に開催することが決定した。本行事については2013年1月発行のニューズレターにて報告がなされた。
- 32) 東海支部総会講演会（2012年3月16日，名古屋工業大学）において，技術と社会部門のセッションを設け，13件の講演を行い，ミニシンポ「技術文化を考える」を開催した。
- 33) 九州支部総会講演会（2012年3月16日，佐賀大学）において，技術と社会部門のセッションを設け，5件の講演を行った。

- 34) 当部門が北陸信越支部との共催により岡山大学教授塚本真也氏（当部門委員）を講師とした特別講演会「発想訓練のすすめ～メカニカル発想法～（2013年1月11日（金）13:00～14:30，富山県立大学，参加費無料）」を開催した。当日の参加者は51名であった。
- 35) 部門連携活動として，交通・物流部門との合同見学会ならびに意見交換会（2012年3月5日，総合車両製作所，神奈川県横浜市）の実施を予定している。対象者は運営委員会の関係者に限定した。
- 

A-TS 20-14 人機能支援の工学研究会

主査：高田 一 開催：0回

A-TS 20-15 ブルネル・スピリット研究会

主査：佐藤建吉 開催：1回

A-TS 20-16 スターリングエンジンを活用した工学教育研究会

主査：加藤義隆 開催：1回

A-TS 20-17 技術教育・工学教育研究会

主査：門田和雄 開催：0回

A-TS 20-18 エンジニアリングリスク研究会

主査：高田 一 開催：2回

---